

現場の負担を最小限に！



AIエージェント による

「報告・分析・通知」の自動化
で実現する

人の手に頼らないトラブル未然防止の仕組み



アクセラテクノロジ株式会社 ご紹介

- 設立：2001年7月

富士通(株)のベンチャー起業制度により検索技術を強みとした
ソフトウェアプロダクト開発企業として創業

- ミッション：「お客様の事業をアクセラレート（加速）」

企業の業務をナレッジ×AIの取組みでより良くする
ご支援をITシステムとサービスの両面から提供

- 代表：代表取締役社長 進藤達也 博士（情報科学）

- 商品・サービス：

SolutionDesk ナレッジ×AI®による問題解決システム（ナレッジ活用 I T）

K-Board ナレッジボード（ナレッジ創出IT）

BizAntenna 多言語ナレッジベース（自動翻訳連携）

TanQlo エンタープライズサーチ（オンプレミス製品）

BizSearch ASPサイト検索 ホームページのサイト内検索

達人シリーズ コンサルティングと I T 導入支援による業務特化型改善サービス

- 保有特許：ナレッジとAIを連携させた情報処理技術（特許第7761291号）
文書共有システムに関する技術（特許第5993848号）

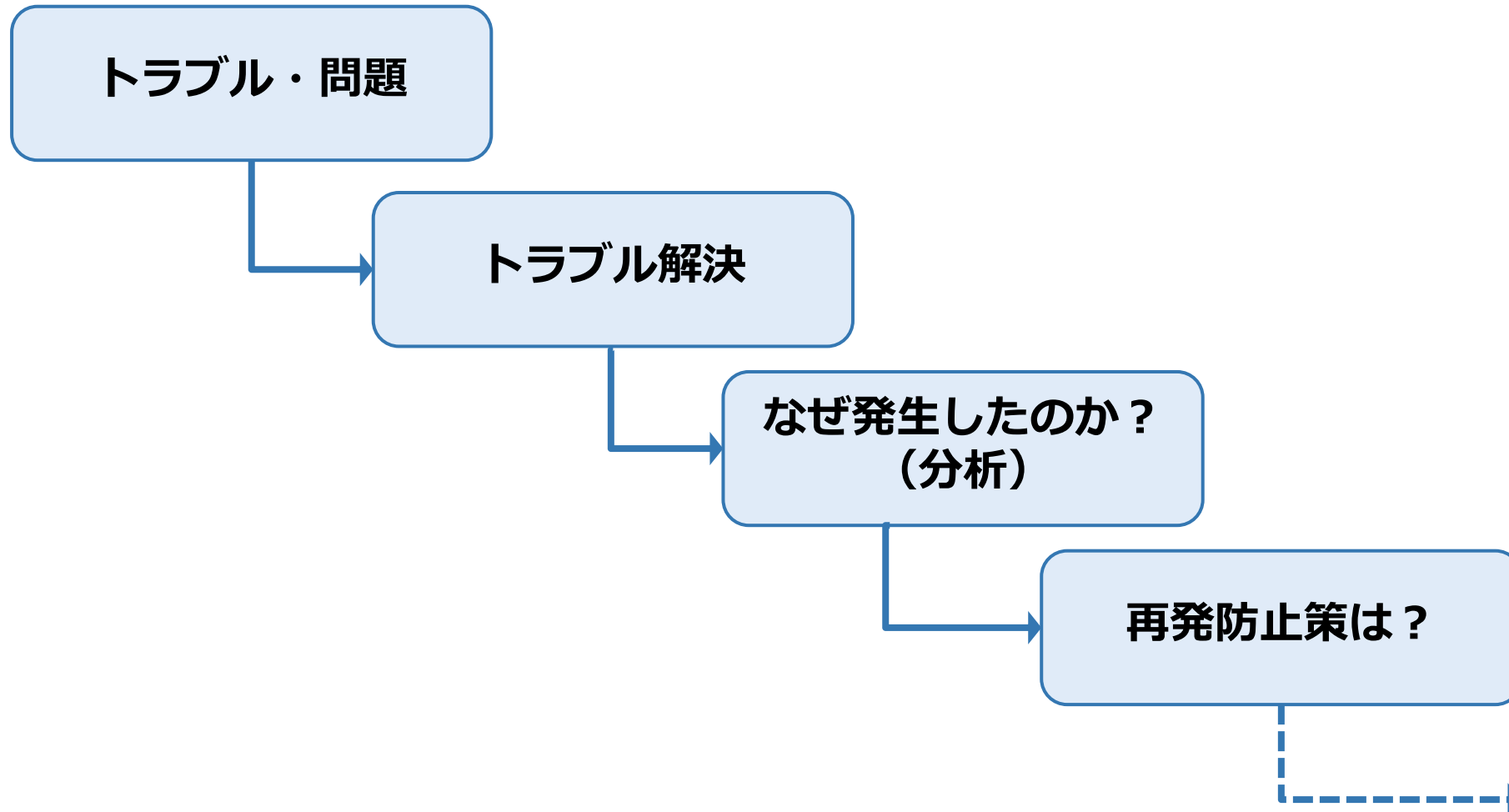
アジェンダ

- 過去トラの活用とは
- 過去トラ蓄積・活用を阻む「見えない壁」
- AIエージェントによる報告・分析・通知自動化
- 運用例のご紹介
- SolutionDeskのご紹介
- 導入支援のご紹介・まとめ
- 質疑応答

セッション1 過去トラの活用とは

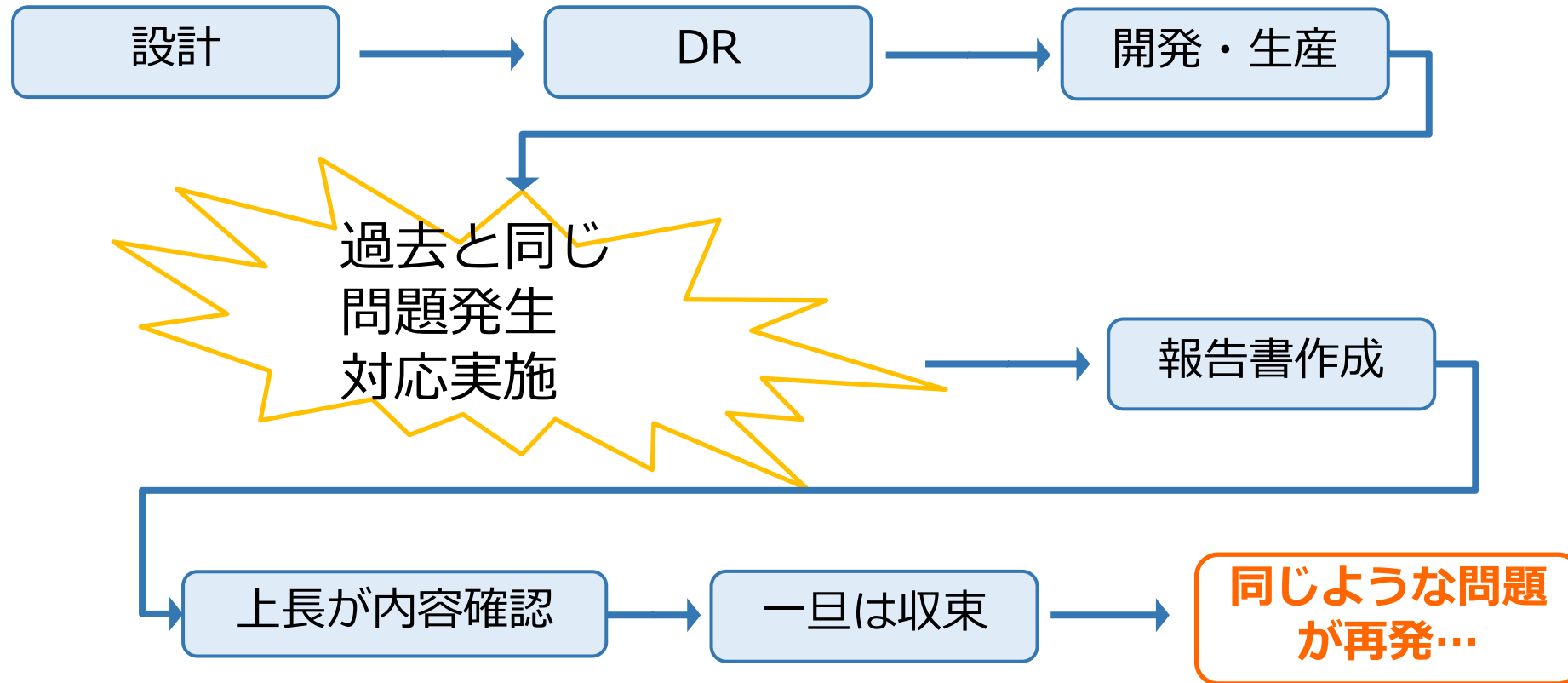
過去トラの活用とは

発生したトラブルや問題に対して分析を行い、
同一の問題を発生しないようにする



過去トラ活用の効果・メリット

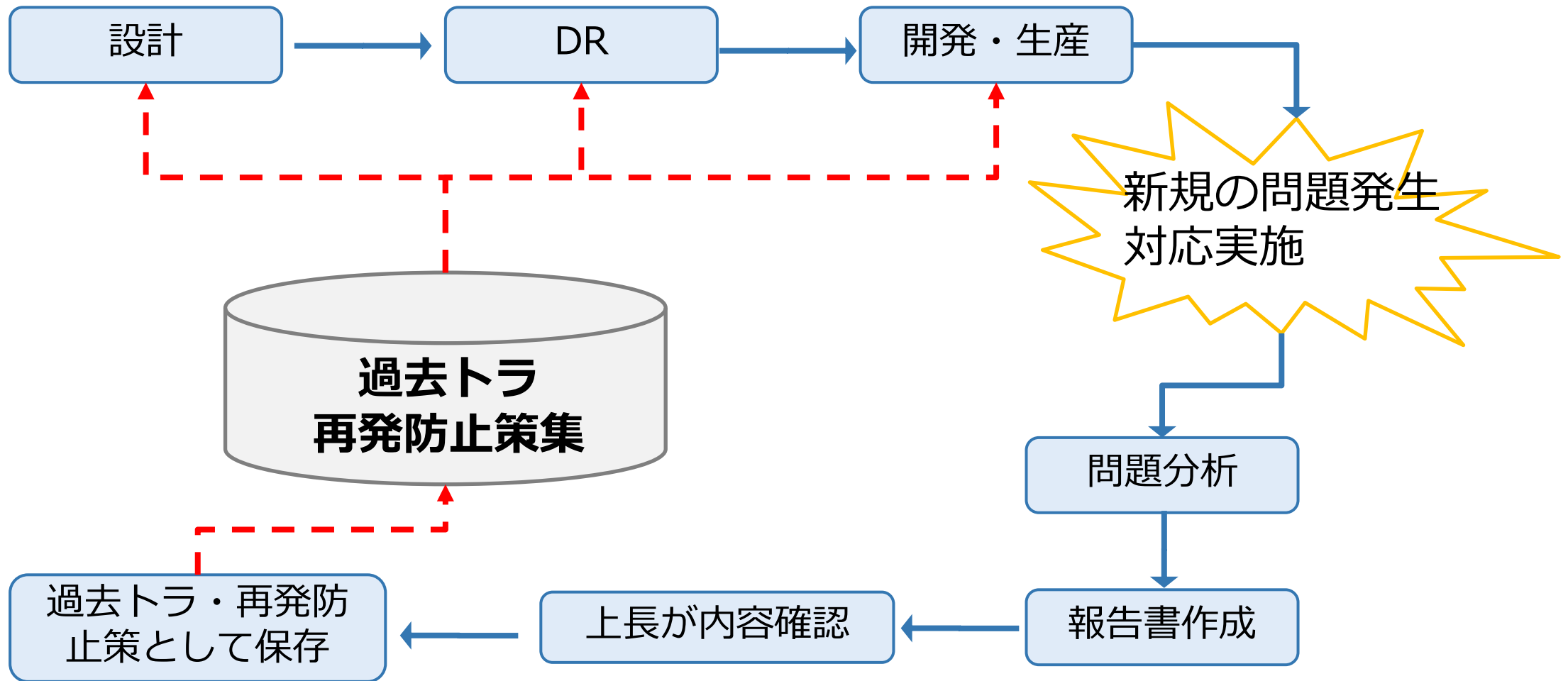
Before : よくある問題発生とその後の流れ



- ・ 作業や製品の品質低下
- ・ 顧客満足度低下、クレームの増加
- ・ 問題対応工数の増大

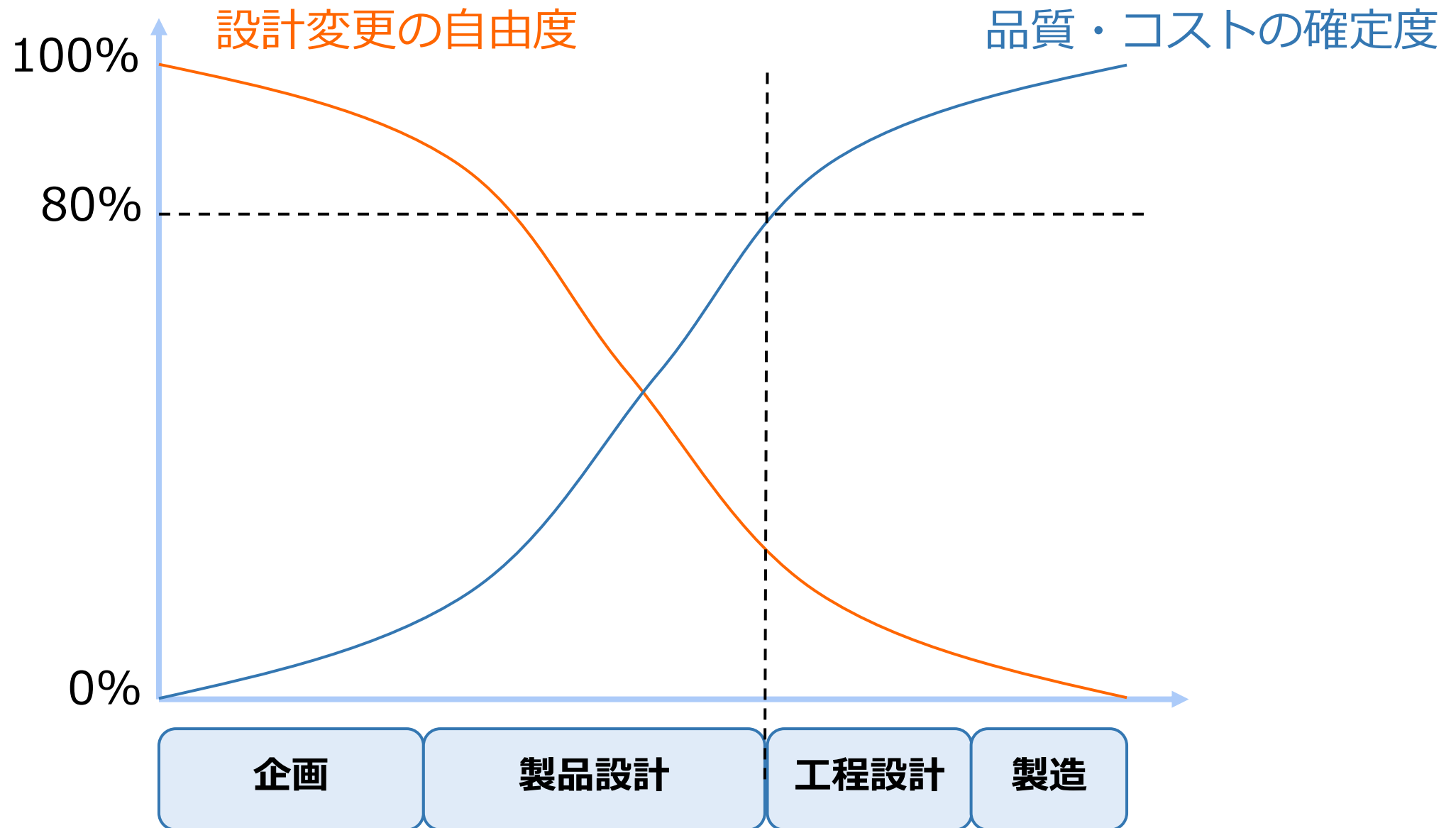
過去トラ活用の効果・メリット

After : 過去トラ活用後の流れ

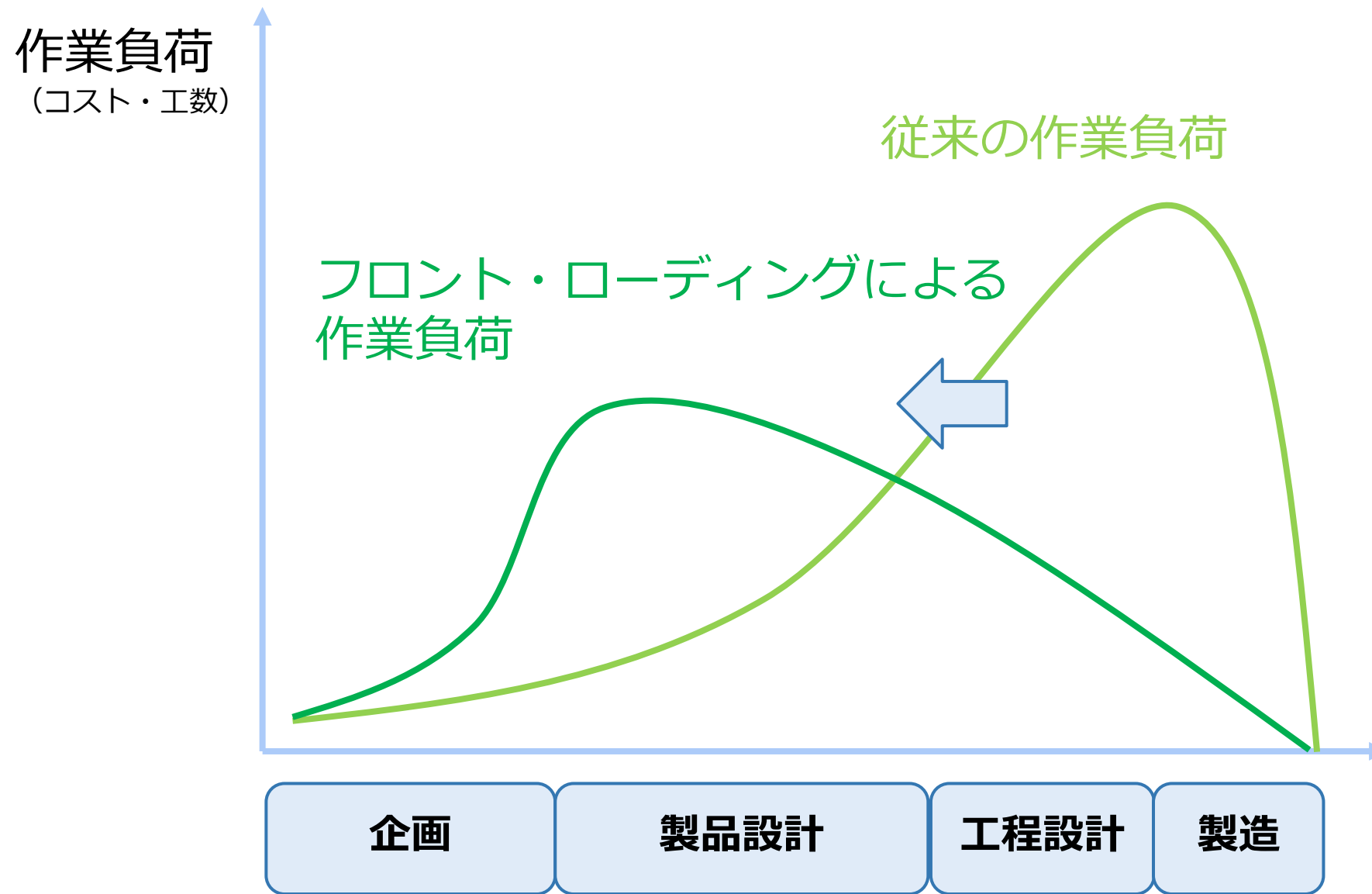


「既知の事例を活かす・学ぶ」

なぜ上流工程での対策が必要なのか？



なぜ上流工程での対策が必要なのか？



セッション2 過去トラ蓄積・活用を阻む「見えない壁」

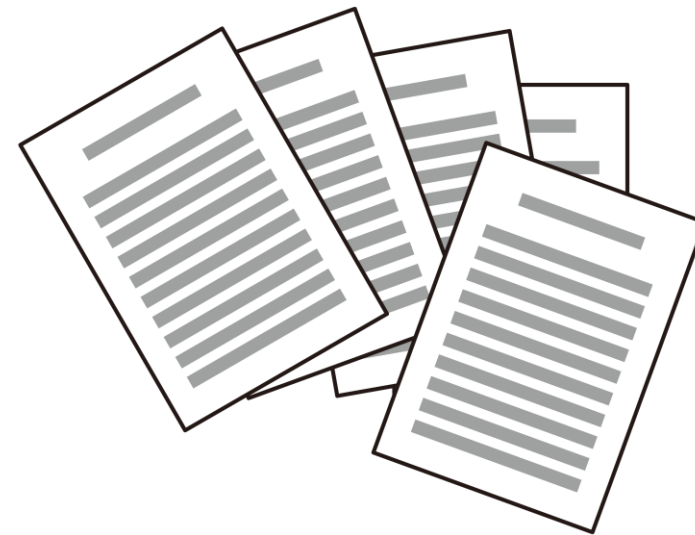
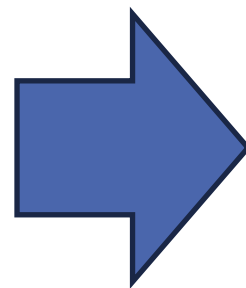
過去トラ蓄積・活用を阻む「見えない壁」

1: 「書く」ことの課題

**「書く」手間をゼロにしなければ、
過去トラ活動は現場に定着しない**



トラブル対応中の「報告」は
現場への酷な要求

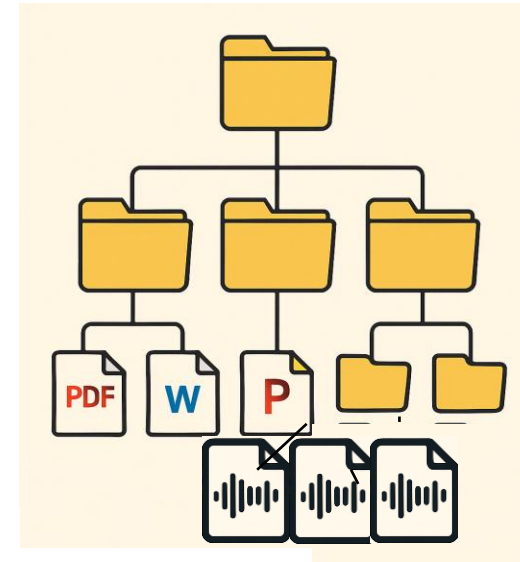
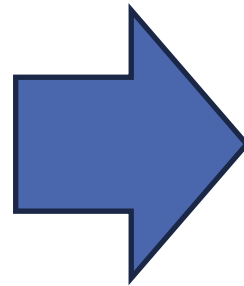
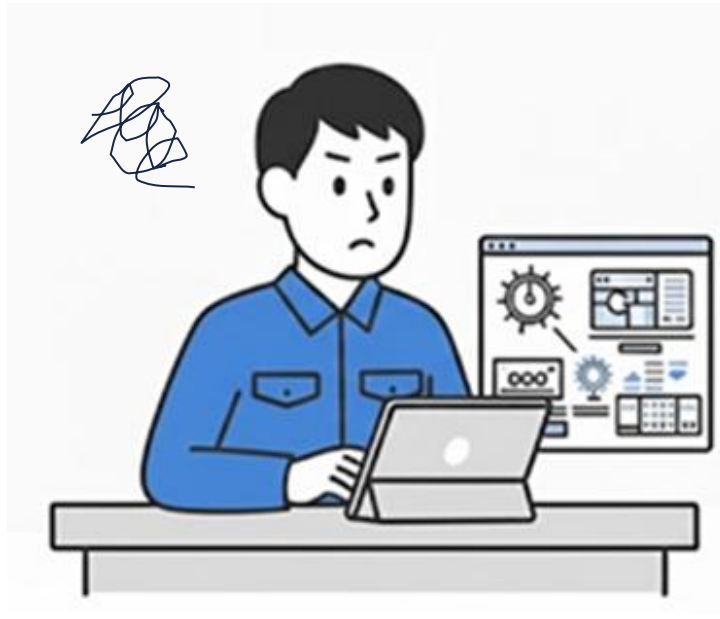


内容的に不十分な報告

過去トラ蓄積・活用を阻む「見えない壁」

2: 「探す」ことの課題

「探す」手間をゼロにしない限り、
過去トラの活用は進まない



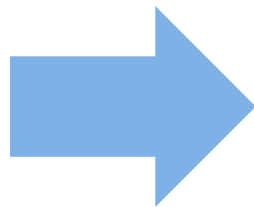
今必要な情報がどこにあるかわからない

「現場の負担をAIが代行する」 解決策へのシフトが不可欠

セッション3 AIエージェントによる報告・分析・通知自動化

解決策①「書く」を代行：報告の自動化

報告書作成をAIエージェントが代行



作業報告書（入力）

① 作業開始日時	2025 年 10 月 14 日 18 時 15 分
② 作業終了日時	2025 年 10 月 14 日 18 時 15 分
③ 作業者名	例) 田中 太郎
④ 作業内容	選択してください
⑤ 製品ロット番号	例) 1234567890
⑥ 数量（良品）	0
⑦ 数量（不良品）	0
⑧ 使用設備	選択してください
⑨ 備考／特記事項（自由入力）	例) 10:15～10:25 設備停止。異音のため安全呼出し。再起動後は正常。
● 録音 一時停止 ■ 停止 ✖ クリア 音声入力：待機中	
⑩ 画像添付	画像をアップロード カメラで撮影 クリア 未選択

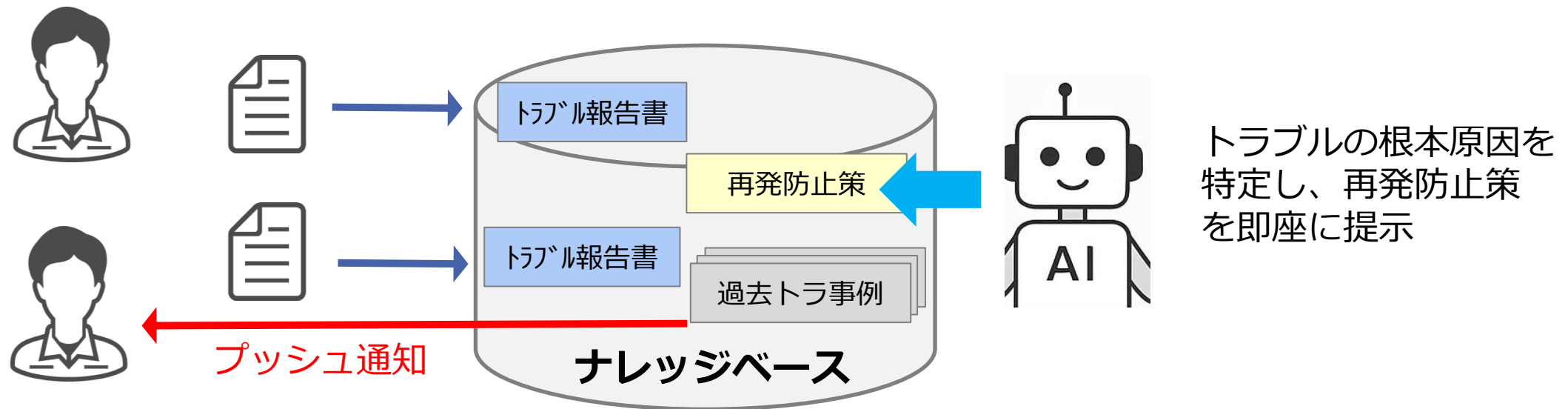
※ 送信時は JPEG（品質0.9）／最大幅300pxに縮小して Base64(JSON) で送信します。

登録

報告書作成にかかる時間を大幅削減

解決策②「分析・活用」を代行：プッシュ型のナレッジ活用

登録された報告書をもとにAIが分析を実行・再発防止策を生成



AIが状況を察知し、見るべきナレッジを自動で提示

「使える過去トラ」が自動で溜まる

現場に負荷をかけることなく、組織の財産となる「使える過去トラ」が自然に貯まっていくサイクルが確立

属人化を排除し、分析精度を均一化

AIがフレームワークに基づき、客観的かつ論理的な分析を実施
担当者の経験値に左右されない、高品質な再発防止策の策定を実現

再発防止のスピードアップ

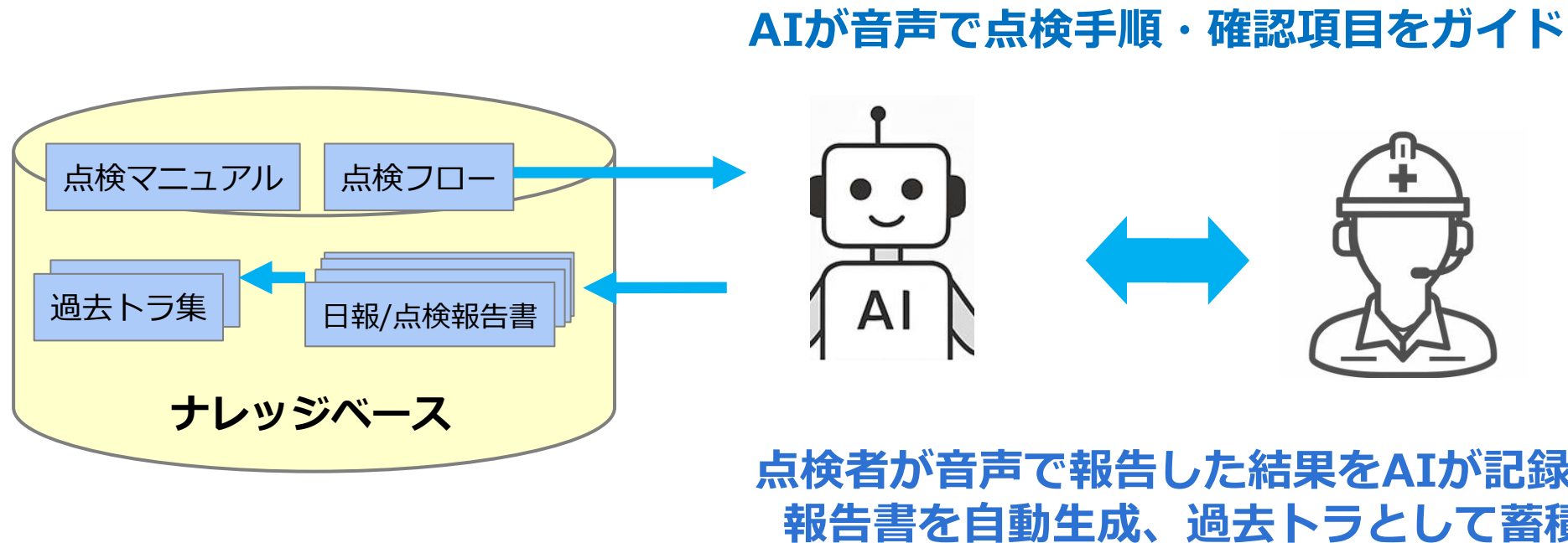
AIが必要な時に最適な情報を通知するため、情報の検索や精査にかかる工数は限りなくゼロに

**「現場に負担を強いる」過去トラ活動から、
「AIが現場を支え、自動でナレッジが循環する」新しい形へ**

セッション4 運用例のご紹介

音声報告による過去トラ蓄積

点検結果を音声で登録、登録内容をもとに報告書を自動生成⇒過去トラとして蓄積



AI音声による結果登録と報告書生成で、過去トラ蓄積の手間を大幅削減

過去トラを使った問題解決

AI質問窓口

① 型番選択

型番を選んでください

TQ12000

ACL2300

TQ8000

ACL1001

ACL1000

以下のナレッジから回答します。

TQ12000におけるバッテリー(BA0002)の劣化

TQ12000におけるバッテリーショートによる設備停止

TQ12000におけるランプ(RA00001-002)の破損

TQ12000におけるランプ(RA00001-003)の劣化

TQ12000におけるバッテリー(BA0003)の機能不良

TQ12000におけるバッテリー(BA0001)の破損

TQ12000におけるベアリング(BAR00101-01)の摩

② 質問入力

質問を入力してボタンをクリックしてください

質問内容

ご質問や詳細を入力してください

AIに質問

③ 回答表示

ここにAIからの回答が表示されます

まだ回答はありません。①でカテゴリを選択後、②から「質問」を送信してください。

ナレッジ×AIエージェントが実現する「循環型」業務革新

AIが「溜める」から始められる

AIエージェントが、日々の業務（音声、メモ等）からナレッジを**自動生成・蓄積**するところからスタート

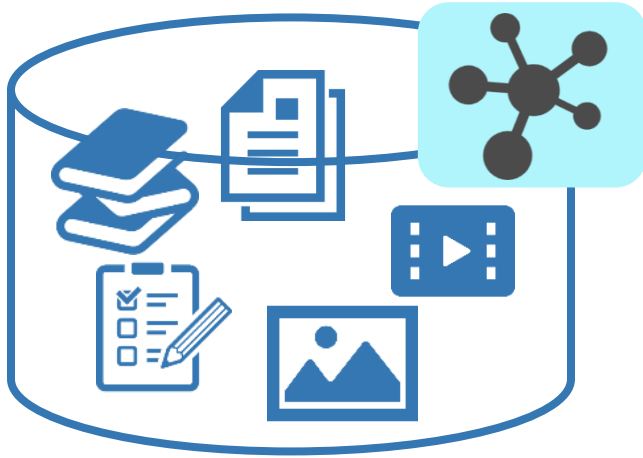
AIが「使う」から定着する

「登録」や「時間」をトリガーに、**AIエージェントが自動でチェック・分析・通知**を行い、業務プロセスに介入

伴走支援で「成果を出し続ける」

実際の利用から、ナレッジや仕組の改善点を確認
プロンプト・自動化・業務画面などを継続的に改善

ツール提供と伴走型サービスの両輪でご支援



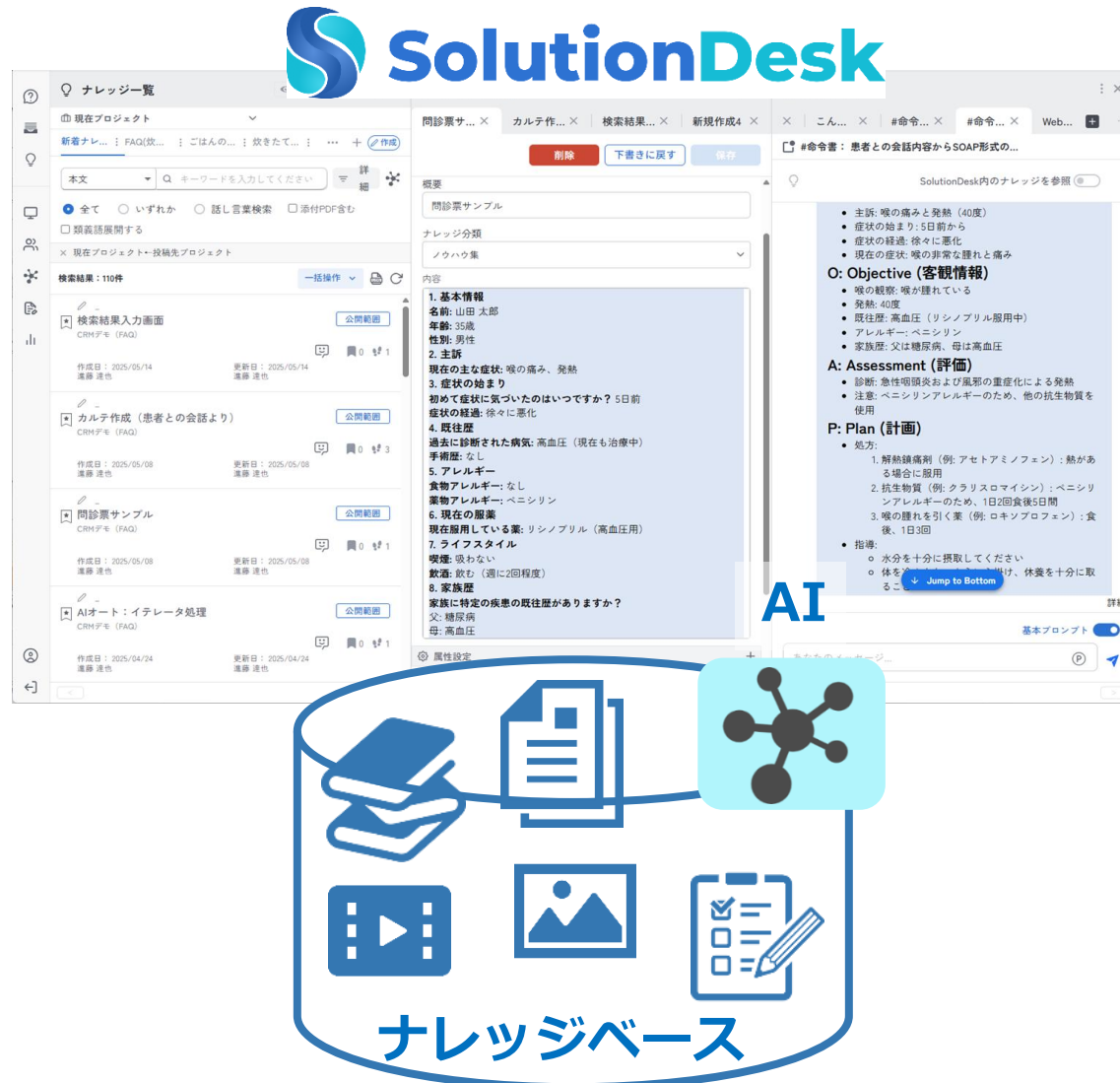
SolutionDesk



伴走支援サービス

ナレッジマネジメントに基づくAI活用ソリューション

企業内に散在するナレッジを、業務で“使える形”に整え、AIと一緒に育てていくための基盤



The image displays the SolutionDesk interface, which is a knowledge management system. The top section shows a search bar and a list of documents. The main content area displays a detailed medical case study, including patient information, symptoms, and a treatment plan. The interface is designed to be user-friendly and accessible, with a clear layout and intuitive navigation. A blue circle with icons representing various types of knowledge (documents, images, videos, etc.) is overlaid on the bottom left, labeled "ナレッジベース" (Knowledge Base). The SolutionDesk logo is prominently displayed at the top center.

生成AIを搭載した
ナレッジマネジメント基盤

部門ごとに独自の
ナレッジベースを構築

チケット管理による
業務依頼・進捗管理

業務に組み込める
実務直結AIアプリ

共通ナレッジベースを参照し
AIが業務支援・自動化

CRMやSFA、設備管理など
既存システムと柔軟に連携

ナレッジ×AIを現場に定着させ、業務変革を持続的に支援します

■ ナレッジ×AI業務実装モデル

- ・ゼロから作らない導入方式
- ・短期間で「貴社仕様」へ最適化
- ・段階的かつ柔軟な導入や拡張性

■ 継続的な伴走支援体制

- ・継続的な運用サポートと現場の実行力向上
- ・属人化防止とリスクの解消
- ・人材育成とノウハウの蓄積

